

## 自己評価報告書

平成23年 4月14日現在

機関番号：16101

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20720206

研究課題名（和文）弥生時代における結晶片岩製石器生産・流通史の復原に関する研究

研究課題名（英文）Stone tool of Crystalline Schist in Yayoi Period

研究代表者

中村 豊（YUTAKA NAKAMURA）

徳島大学・埋蔵文化財調査室・准教授

研究者番号：30291496

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：結晶片岩、大陸系磨製石器、加工斧、原産地、

## 1. 研究計画の概要

結晶片岩は、弥生時代において、おもに磨製石器の素材として重用された。とくに、近畿～瀬戸内地域において、その傾向が顕著である。この石材の生産と流通を把握することは、弥生時代の社会を復元する上で、極めて重要であるといえる。

結晶片岩は、三波川帯として西南日本一帯に広く展開している。そのため、石器石材の原産地を深く掘り下げることがあまり行われてこなかった経緯がある。

結晶片岩製の石器は多様な器種に使用されているため、これらすべてを追い求めることは不可能なので、加工斧（柱状片刃石斧・扁平片刃石斧）に絞った。すでに、これらの石材が、徳島県の三波川帯に特徴的な、藍閃石一塩基性片岩を利用していることがわかっていたので、この点を活かした研究計画を策定した。まず、考古学的な遺物観察と、資料集成をおこなって、その分布傾向を把握する。次に比重計測と色調調査によるデータ収集をできるだけ多くおこない、その特徴を捉えたい。また、蛍光X線分析などもあわせておこない、可能な限り原産地を絞り込めるよう努力する。最終的に、データ全てを含めた成果報告書を刊行する。

## 2. 研究の進捗状況

資料の集成と実見によって、これらの石器は、近畿地方から東部瀬戸内地域に広く分布することが判明している。徳島県下の遺跡としては、徳島市南庄遺跡、同矢野遺跡、鳴門市光勝院寺内遺跡、同カネガ谷遺跡、同桧はちまき山遺跡、阿波市北原遺跡、同土成前田遺跡、同日吉谷遺跡、同桜ノ岡遺跡、同前田遺跡、同赤坂遺跡、同西原遺跡、同丸山遺跡、

同大谷尻遺跡などで、多量の柱状片刃石斧が出土していることが判明した。とくに、吉野川下流の南庄遺跡や、中流の桜ノ岡遺跡では、製作工程を示す未成品が出土している。現時点では徳島のみから見出されている。この考古学データのみを見ても、徳島に原産地があり、これらを生産していた可能性が高いといえよう。

消費先とみられる香川県では、東かがわ市池ノ奥遺跡、高松市さこ・長池遺跡、同松林遺跡、同前田東・中村遺跡、同上天神遺跡、同太田下・須川遺跡、善通寺市旧練兵場遺跡などでの出土を確認した。とくに、池ノ奥遺跡と旧練兵場遺跡での出土点数は多く、これらの遺跡を核に周辺の遺跡へと流通していったものと考えられる。

兵庫県では、神戸市玉津田中遺跡、同伯母野山遺跡、芦屋市会下山遺跡、三田市有鼻遺跡、同奈カリ与遺跡、丹波市七日市遺跡、姫路市丁・柳ヶ瀬遺跡、同亀田遺跡、三木市年ノ神遺跡、たつの市養久乙城山遺跡などで出土した。兵庫県の特徴は、丘陵上の遺跡から多く出土していることであろう。

その他、大阪府、和歌山県、岡山県、奈良県の遺跡での消費を確認できた。

また、比重のデータの収集によって、弥生中期後葉以降の藍閃石一塩基性片岩製の柱状片刃石斧・扁平片刃石斧は比重が3以上を示しているのに対し、弥生前期～中期前葉の柱状片刃石斧や石庖丁などに使用する一般的な緑色の結晶片岩は、2.7～2.9の範囲に収まる特徴を捉えることができています。この特徴は、先述の標本とも一致しています。

## 3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

(理由)

すでに 1000 点を超える資料を実見し、データ収集をおこなっている。これは、当初必要と考えていた 500 点程度を大きく上回っており、より精度の高いデータを提示できる可能性が高い。また、原産地の候補である徳島市眉山・吉野川市高越山を訪問し、石器素材の岩石標本も得ており、原産地の分析資料についても、蓄積できている。

4. 今後の研究の推進方策

本年度も、上半期に可能な限り、資料の実見とデータの収集を続ける。

下半期にデータを分析し、報告書にまとめる。

これらに併行して蛍光 X 線分析を委託する予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

- ①中村 豊「東部瀬戸内地域における大型石棒の出土例-晩期後半を中心に-」『縄文人の石神-大形石棒にみる祭儀行為-』國學院大學考古学資料館, 2010, 査読無, P1~14
- ②中村 豊「東部瀬戸内」『季刊考古学』第 111 号, 2010, P68~72
- ③中村 豊「石棒を通して見た縄文から弥生への地域社会の変容」『一山典還暦記念論集 考古学と地域文化』, 2009, 査読無 P49~58
- ④中村 豊「四国島東部地域における片岩製石器生産の展開」『和田晴吾先生還暦記念吾々の考古学』, 2008, 査読無, P77~93

[学会発表] (計 1 件)

- ①中村 豊「庄・蔵本遺跡」『第 2 回 発掘へんろ調査成果報告会』徳島県立埋蔵文化財総合センター, 2010 年 12 月 5 日